

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4090100126 | | |
| 法人名 | 株式会社 さわやか倶楽部 | | |
| 事業所名 | グループホーム みどりのき | | |
| 所在地 | 〒801-0883 福岡県北九州市門司区大久保1丁目9番2号 Tel 093-321-8800 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年8月31日 | 評価結果確定日 | 平成23年10月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ内山グループである、株式会社ボナーの協力により、外食レクリエーションやケータリングが行える。民生委員からの情報により、地域行事に時々参加している。地域の小学校児童が夏休みなどを利用して時々訪問して下さる。ハード面は、建物を囲むようにベランダがあり、入居者が自由に歩き来ている。ベランダから陽が射しこみ、昼間でも非常に明るく、気持ちが良い。職員が献立考え、バランスの良い食事を提供している。隣接する介護付き有料老人ホーム さわやか和布刈館と運動会や夏祭り、ホットケーキ作りやもちつきなど、同グループで協力し合い、行事を行っている。介護サービス相談員の受け入れを行い、入居者様の相談に乗ることにより、ストレスの軽減を図っている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

門司港の青い海と、山の緑に囲まれた見晴らしの良い小高い丘の上に、有料老人ホーム併設のグループホーム「みどりのき」がある。チームワークの取れた管理者と職員は、利用者一人ひとりの目線に合わせた介護サービスを目指し、慈愛の心で取り組む姿勢は、安心して任せられるという、利用者や家族の信頼に繋がっている。運営推進会議委員の協力で、地域の行事や情報を聴き、利用者や職員は積極的に参加し、隣接有料老人ホームと、共同で、運動会、夏祭りを開催し、地域住民に案内し、交流の輪が広がっている。また、法人所有の温泉施設へ、利用者と家族も一緒に出かけ、楽しい思い出を作っている。今後は、高齢化が急速に進む門司地区において、認知症介護サービス事業の拠点として、地域住民の期待に応えるグループホーム「みどりのき」を目標に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成 23年09月30日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家庭的で安心した生活、個性、能力の発揮を事業所の理念としている。法人としての理念は慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義である | 利用者の個性や持てる力を大切に支援し、協同で作品を製作する場合も、一人ひとりのペースを尊重しながら声かけをする等、理念の実践に努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 市民センターで行われる、ふれあい昼食会に参加している | 地域行事への参加や、近くの小学生の来訪を歓迎する等、地域とのふれあいを大切にしている。また、町内会の活動に積極的に参加するまでには至っていないが、ホームの行事に地域の方を招く等、地域交流の輪が少しずつ広がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々に向けて生かしきれてはいない | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 事故報告、困難事例の発表、それに対する意見交換、地域行事への参加を主に話し合っている。 | 会議ではホームの実情を報告し、参加メンバーから意見や助言を積極的に聴いている。ボランティアの紹介や介護サービスに関する助言等、ホームのモニター役として重要な役割を担い、出された意見をサービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護保険課事業者支援係の方より介護サービス支援相談員の派遣の勧めがあり、受け入れを行った。 | 市の担当者からの助言をもとに、介護相談員制度を活用し、利用者の相談に対応したり、地域包括支援センター職員からは常に介護に関する助言や情報を得て、地域福祉の向上に向けて協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 過去に離脱事故があり、玄関の施錠は24時間行っている。 | 身体拘束マニュアルを作成し、研修でも取り上げ、身体拘束が利用者にも与える弊害を理解しているが、安全を優先し、やむを得ず玄関に鍵を掛けている。利用者の行動パターンの把握や開閉時の工夫等で、行動を制限することなく安全を確保できないか検討中である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内で勉強会を半年に1度行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は運営推進会議やグループホーム協議会の研修で学んでいる。職員が学ぶ機会は少ない | 管理者は研修に参加し理解を深め、現在制度を活用している利用者への支援をしている。ホーム内で学習会を開く等、職員全員が知識の共有を図るまでには至っていない。 | いつでも必要な時に必要な支援が出来るよう、職員は制度に関する理解を深め、資料を備えて利用者、家族に説明出来るよう支援体制を整える取り組みを期待したい。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 今まで契約に関しては疑義や質問等はない。時間をかけて説明を行っている | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時に苦情申し立ての窓口を説明している | 年に2回の家族会の開催、運営推進会議への家族の参加、苦情受付箱の設置、また、家族の訪問時や行事への参加時には、積極的に意見を聴くようにしている。出された意見や要望は職員間で検討しホーム運営に反映させている。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回、フロアミーティングを行っている | 月に1度全職員が参加してのフロア会議では、法人幹部に意見や要望を伝えている。また、ミーティングやカンファレンスを実施すると共に、個別に話を聴く機会も設けている。出された意見は運営に反映できるように努力している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 社内資格を作り、勉強する場を作り、手当も設けている | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 年齢制限なく雇用している。職員は希望休や有給を取れる環境である | 職員の採用にあたっては、性別や年齢などの制限は設けていない。定年制も設けているが、希望者には、経験を活かして働き続ける事が出来る。希望休は月に3日まで可能等働きやすいよう配慮している。今後は交代で休憩出来る体制を検討中である。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 現任者に対する研修で、高齢者虐待や、身体拘束の勉強会を行っている | 法人の理念の柱に「尊厳を守る」を掲げ、研修会等を実施しているが、記録として残していないものもある。皆で共有出来るよう活用しやすい記録の工夫を考えている。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月に1度現任者を対象に研修を行っている。新人や、リーダーに対する研修もある | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会が開催する研修に参加させていただいた | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回アセスメント時に、本人、御家族より、希望を聞く | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | おおむね2週間で暫定プランから本プランに切り替える為、要望を聞ける機会がある | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームなので、他サービスは利用できない | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活をする中で、家事を生活リハビリとして、家事を職員と一緒にしている | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会の少ない家族には連絡させていただき、現状を報告するとともに、面会に来て頂けるよう促している。 | | |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 美容院やかかりつけ医に職員、又はご家族対応で行くようにしている。近隣の市民センターのイベントに参加している | 隣接する介護付有料老人ホームから入居の利用者には訪問を促し同行する事もある。理・美容師の定期的な訪問もあるが、行きつけの美容院を家族の協力を得て利用する等馴染みの関係を大切に支援に努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | テーブルを4つにわけて、それぞれ気の合う方同士になるように工夫している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に退去した入居者様のもとに面会に過去行っていた | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用し、本人の意向の確認に努めている | 利用者一人ひとりに担当職員がいて、思いや意向が表出しやすいようにすると共に、利用者の自己決定を大切に声かけに努めている。意向の把握が困難な利用者には、家族と相談し、意向を聴いてもらう事もある。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族本人に聞くようにし、把握に努めている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | センター方式を活用し、本人の意向の確認に努めている | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議を3カ月に1回開催し、情報交換をこまめに行っている。モニタリングは月1回行い、プランの成果を確認している | 日頃の関わりの中で得た情報や家族からの情報等を、介護記録や個人記録に残し、職員で検討して、介護計画に反映させている。月に一度モニタリングをし、3ヶ月に1度介護計画の見直しをしている。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 特記事項、ケア記録に記入している | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 他施設に退去した入居者様のもとに面会に過去行っていた | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月1回、市民センターで行われるふれあい昼食会に参加している | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2回ホームドクターからの往診があり、必要時には総合病院に紹介して頂ける環境である | 月に2回の往診と、24時間対応可能な医療機関との連携など医療体制を整えている。利用者、家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診支援もしている。受診時は家族が同行しているが、職員が同行することもある。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接するさわやか和布刈館の看護師に、アドバイスを受けることができる。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院する前は必ずアセスメントに伺うようにしている。その情報を職員に伝え、どういった介護をしていくかを話し合っている | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ほとんどのご家族がまだわからないとおっしゃっている。あるご家族は、自宅に連れて帰るとおっしゃっている。 | 利用者の重度化した場合や、終末期のあり方について家族に説明しているが、文書化し同意を得るまでには至っていない。ホームでの看取りを望む家族の声もあるので、今後の課題として検討している。 | 重度化した場合や終末期のホームの対応は、利用者、家族にとって関心事と共に不安の要因でもある。ホームで出来ること、出来ない事の見極めをし、文書化し、家族に説明し、同意を得ておく取り組みが望まれる。 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | フロアミーティングの場で、夜間緊急対応の勉強会を行った。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 大雨被害の為、過去2度隣接のさわやか和布刈館へ避難した。 | 年に2回、隣接する有料老人ホームと一緒に夜間を想定した避難訓練を実施している。平屋、広い玄関、居間兼食堂の大きな掃きだし窓など容易に外に出易い造りと緊急通報システムの設置等設備面は充実しているが、非常災害時に備えた備蓄はしていない。 | 職員の半数がホームの近くに住み夜間の協力体制は整えているが、非常災害時には、近隣の人々の協力は欠かせない。近隣住民も参加した避難訓練の実施と、非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | さわやか倶楽部の方針で、入居者様には「様」付けを徹底している。 | 利用者の誇りを損なうことがないよう、職員は常に言葉や態度に注意を払いながら支援している。利用者の写真を掲載したホーム便りは、家族の了承を取り配布している。書類は鍵のかかる所に保管する等、個人情報の保護にも細心の注意をはらっている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 衣服を選んで頂くことはできている。ご本人希望の外出は現状はご家族にお願いしている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 就寝時間、食事時間、起床時間を多少融通がきくように支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族に洋服を持ってきていただけるようにお願いしている。外出時は化粧をして出かけるようにしている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器の片付け、配膳を手伝って頂いている。調理を行える能力がある方はいらっしやるので、支援していく必要がある。 | 2ヶ月に1度、利用者の嗜好調査を実施し、献立を作成している。利用者と職員は、食材の買出しから後片付け迄、出来る範囲で一緒にしている。利用者と職員が、和やかな雰囲気です卓を囲んでいる姿は微笑ましい。また、月に一度の外食も利用者の楽しみの一つになっている | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分摂取量を記録につけている。主治医との連携、水分を多く取ってもらうよう支援している | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声かけを入居者様全員に行っている。できない方は支援する | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 記録から排泄時間の把握に努め、トイレ誘導している。おむつの会社と連携し、その方にあったものを提供している | 利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。夜間オムツを使用している利用者も昼間は紙パンツや布パンツにする等の取り組みで、ホームに入居後オムツから布パンツに代わった利用者もいる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 麦ごはん、ヨーグルトはよく提供する。毎日リハビリ体操を行う。だがほぼ全員下剤を使用している | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は特に定めていない。基本的に月～土迄行い、日曜には希望者のみとしている | 週3回の入浴を基本としているが、利用者の状況や希望に沿って個々に対応している。浴室や脱衣室は広く明るく、安全面に配慮した造りになっている。入浴を拒否する利用者には、職員が交代して対応する等、全員が入浴を楽しむことが出来るように支援している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠の時間を一人一人に合わせ、就寝して頂くようにしている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ホームドクターにその都度報告を入れている。また、2週間に一度往診があり、現状報告を行っている | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 外出、外食レクリエーション以外、個別レクに関してはご家族にお願いしている。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族に支援して頂き個別的にレクリエーションを行っている | 月に1度の外食や、隣接する有料老人ホームと一緒に運動会や夏祭り、季節ごとの花見、ふれあい昼食会等、全員で出かける機会が多い。また、個別の外出は家族に依頼し対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金の管理は入居者様は行っていない | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話、手紙のやり取りができるよう、本人が希望する時は支援している | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の飾りを入居者様によって作っていただいている。こまめに室温設定をしているが、エアコンの風が当たる為、不快な思いをさせるときがある | 広々とした居間兼食堂には、利用者の相性や食事のペース等を考慮し、4箇所テーブルを配置している。大きな掃きだし窓の外には、広いウッドデッキが設けられ、戸外での生活を楽しむことも出来る。廊下、浴室、トイレ等全て職員の視界に入る等、安全面にも配慮した造りになっている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルを4つにわけて、それぞれ気の合う方向士になるように工夫している | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはご本人の好きなものを持ってきていただくようにご家族に説明している | 居間兼食堂を囲むように配置された居室のドアには、目印も兼ねた花の絵と担当職員の写真が飾られている。大きな窓からは、自然の光や風が入り心地よい。居室には、使い慣れた家具が置かれ、壁には家族の写真や手作りの作品が飾られ、居心地よく過ごせる居室になっている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗面台に一人一人洗面用具を置いており、声かけで自立して歯を磨けるように工夫している | | |